

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070200888		
法人名	医療法人社団 醫光会		
事業所名	グループホームとんぼ		
所在地	群馬県高崎市上豊岡町913-3		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和元年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

とんぼの理念でもある「自分らしく生き生きと」生活出来るよう、良く見て(観察)、良く聞いて(傾聴)、良く話(思いに寄り添う)関わりが出来るよう、日々つとめています。色んな「楽しい」を職員と常に共感出来るよう、マンネリなイベントではなく「青空の下でハンバーガーを食べよう!」とか、毎狩りも、どうせ食べるならとびきり美味しい苺を食べよう!と、クラシック音楽を聞いて育った美味しい苺を食べに行こうなど、笑顔になれる企画をしています。地域との交流も積極的に行い、やるベンチャーの受入、お茶やお花・書道教室を近所の方に継続お願いしています。

事業所は、定期的に訪れる華道・書道などのボランティアを積極的に受け入れ、利用者、ボランティア双方の楽しみとなっている。排泄支援においては、パンツ用バット等の介護用品を吟味した使用により、排泄や着脱が安楽に行えるよう、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。職員は、法人で毎月開催される「安全管理事故防止」「感染症防止」「レクリエーション委員会」「コスト委員会」等に所属し研修を行い、現在の生活の場が本人、家族にとって安心して過ごせるような場所となるような支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所・玄関に掲示し、職員全員で実践に取り組んでいます。	視覚的な意識を図り、理念を事業所内に掲示している。毎月の職員会議時には、利用者一人ひとりの「その人らしさ」等について話し合いを行い、理念に掲げている重要事項の実践と職員間の共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴等に出た際、こちらから積極的に話し掛けたりして良い関係作りをし、趣味の手芸品をいただいたり、お茶やお花・書道の指導も受け地域の方との交流を行っています。	天候等を勘案し、近隣を散歩して地域の人達と挨拶や会話をし、また、近隣住民の飼い犬を通じての関わり合い等で、交流の機会を図っている。定期的に訪れる華道、書道などのボランティアの受け入れには、利用者・ボランティア双方の楽しみとなっている。	敷地内にある法人他事業所との情報共有や連携を通じて、より多くの幅広い地域の人達とのつながりが築かれるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に中学生の就労体験の受入れや、運営推進会議を通して地域代表の方達にも認知症の方の理解をして頂くよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者様の状況・行事報告、事故報告と対策、質問・意見・要望を受け職員会議の議題に上げサービス向上に活かす様にしています。	会議は2ヶ月ごとに開催し、全家族に「とんぼ新聞」と共に、開催案内を郵送している。会議では、利用者状況、活動報告などや認知症の方への理解・身体拘束についての説明を行い、意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃より連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員や、管理者が利用者の報告や申請代行で市の窓口に出向き、相談や意見交換、情報交換を行っています。申請書類の分からないところは電話や窓口に出向き確認しています。	市の担当者とは、運営推進会議の他に事務手続きや運営上の疑問時がある場合に、その都度、電話連絡、また直接役所を訪問し相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は毎月、身体拘束適正化委員の会議に参加し「拘束ゼロ」を目指していますが、強い帰宅願望で対応が難しい時は施錠をせざるを得ない状況になっています。	管理者は、法人で毎月実施される「身体拘束適正化委員会」への参加を行い、研修後は全職員に周知し、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日常において利用者の不穏時などに、職員がともに寄り添い支援する等により実践化している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは現在利用されている方はありませんが、個々に介護福祉士等の勉強で学び、制度の必要性を把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時と契約時に管理者、ケアマネージャーとで説明し、お家族様に意見を聞きながら対応しています。また、重要な契約書の一部はお渡ししています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様からの苦情や要望はその場で解決できる内容ならば対応し、その他は会議等で話し合い改善に努めています。	入居時、日頃の面会時などにおいて、直接家族の意見や要望などを聞くようにしている。提示された意見等は、職員間、会議で話し合い、フィードバックを行っている。家族からは、職員の職場異動についての意見などが挙げられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標ややりがいを職員個々が決め、業務遂行に努めている。給与水準、労働時間、職場関係の整備にも努め職員個々の実績把握、強化に努めています。	毎月職員会議を開催し、その際に職員の意見を聞いている。食器・文具品など日用品の購入要望などについては、即対応している。管理者、法人の役職者により年2回、個別に職員との面談を行い、個々の職員の意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標ややりがいを職員個々が決め、業務遂行に努めている。給与水準、労働時間、職場関係の整備にも努め職員個々の実績把握、強化に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員個々の実際に行うケアの力量把握をし、見合った法人内の研修開催や、外での研修情報の配布し機会の確保を個々のケア向上を指導をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、地域密着型サービス連絡協議会の総会や大会、管理者研修に参加し交流の機会を持ち、質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境作りを心掛け、入居者様の相談事や話を傾聴し、信頼関係を築けるよう努め、思いを受け止める。また記録や申し送りで情報共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と話しやすい環境作りを心掛け、「思い」を傾聴しより良い関係づくりに努めて生かす。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様と十分に話し合い、サービス担当者と連携を図りながら検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ることは、声掛け、見守りをしながら無理の無いようして頂き、気兼ねなく生活出来る様配慮をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が気軽に訪問出来る環境づくりに努め、職員では解決困難な問題にはご家族様の協力を求め、共に支えていく関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気遣いなく訪問し、ゆったりと過ごせる環境づくりに努め、ご家族様もご本人様と定期的に出外する機会を作っておいています。	毎週のように面会に訪れる家族、在宅時の愛犬を連れて面会に訪れる家族等、家庭にいる時と同様の感覚や風景を継続し、加えて利用者にとって現在の生活の場が馴染みの場となるような関係者への働きかけを含めた支援に尽力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションは毎日の様に行い、内容も工夫し協力し合える様なものにしたがり、普段の生活の場でもコミュニケーションが取りやすい環境作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居をさせられてしまった場合など、その後に関してこちらが出来る範囲で相談や支援に努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動観察の中から本人の思いや意向聞き、汲み取り、職員間でも情報共有し寄り添うよう努め、困難な場合はご家族様と共に検討しています。	日々のコミュニケーションと利用者の観察を大切に、ちょっとした表情の変化の把握、その人の思いや意向の把握に努めている。また、家族の意見を参考に、難聴の方にはゼスチャーを交えた会話を交わし、本人に寄り添った意向の把握を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、ご家族様より生活歴や好まれる事を聞いたり、情報提供書などを参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動観察、傾聴、見守り、職員間でも個々に感じたことなど記録や送りノートを活用し状況把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が毎月の会議で課題提示し、話し合い入居者様やご家族様と十分に話し合い、サービス担当者で連携を図りながら検討しています。	利用者1~2名を一人の職員が担当し、日々の状況などを記録している。それを踏まえて毎月の会議で全員(その時の勤務者)で話し合いを行い、最終的には計画作成担当者がプランを作成している。身体状況の変化時などは、その都度計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、介護日誌に毎日記録し、申し送りノートを活用し職員、ケアマネと常に情報共有を行い、見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様と十分に話し合い、サービス担当者で連携を図りながら検討しています。ご家族の状況、要望に応じて通院介助や受診介助など柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんによる、アコーディオン演奏、歌や日舞、ギターなどをお招きし、暮らしを楽しむ事が出来るよう支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時ご本人、ご家族様の意向を聞き希望するかかりつけ医で医療を受けられる支援をしています。4週間毎に協力医往診支援を行い、緊急時は適切な介護が出来る様配慮しています。	入居時に、協力医による月2回の往診についての情報提供を行ったうえで、希望のかかりつけ医の選択を確認している。原則的にかかりつけ医への受診は家族対応としているが、緊急時には柔軟に対応し、かかりつけ医、また協力医の協力関係を築きながら、適切な医療の提供を心掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来訪し健康管理を行っています。入居者様に不安や変化があった場合は看護師に相談し、受診や看護を受けられるようしんしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネ、管理者が中心となり、関係先に情報提供をして病院関係者との関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明、同意を得ています。状態の変化に応じて意向を確認しながら関係者と話し合い、共にチームで支援に取り組んでいます。	契約時、事業所の「看取り介護の同意書」を基に、説明している。重度化など、身体状況の変化時は家族と話し合い、また医師との相談のうえで対応について検討し、職員間で支援に取り組むことについて検討と情報共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修参加や年に1度の急変時対応訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練、消火訓練、地震訓練、風水害訓練を入居者様、職員参加にて行っています。	年2回、消防署立ち合いのもとに、併設施設との合同で避難訓練を行っている。訓練時は、近隣へ声かけを行っているが、参加には至っていない。食品などの備蓄品を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合わせた声掛けを行うよう、会議や送りで話し合い、確認しながら対応しています。	理念にある「自分らしく生き生きと」を念頭に、気づいたことは記録に残し、職員間で話し合い、一人ひとりを尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話に耳を傾け、行動・性格などの把握に努め、職員間で情報共有し、本人様が自己決定出来るよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の状態や、気持ちに寄り添いながら、体操やレクリエーションの工夫をするなど柔軟な支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時、本人の好みの物を選んでいたり、毎朝眉を描く方もいます。月1回、散髪の訪問があり、ご家族様に確認し希望があれば対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の意向を聞きながら、テーブル拭きや下膳など職員と一緒にしていただいています。食事は職員も同じテーブルを囲み楽しく食事出来る様に支援しています。	献立・食材は業者を利用し、担当職員が調理している。利用者はテーブル拭き、下膳などできることを行い、食事職員と会話をしながらしている。希望時の外食や食事レクリエーションでは、焼きそばやどら焼き作りなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水便摂取量を記入し、職員が情報共有し、その方に応じた支援・一人ひとりの病状や体調を考慮しバランスのとれた食事提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けや介助を行い、日中は日光消毒、夜間は義歯を預かり毎晩洗浄剤につけ、歯ブラシ・カップは専用消毒剤に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握、情報共有し声掛けや誘導にて介助を行っています。また、毎日のリハビリ体操の中に下肢筋力向上になるようなものを取り入れ、自立支援に向けた対応を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、トイレ誘導などを行い支援している。排泄用品を吟味し、排泄や身支度等が自力で安楽に行えるような支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分接種の把握とかかりつけ医と相談のもと、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	H24年4月より、月曜から土曜まで曜日別に入浴を行い希望日に入浴出来るよう支援しています。	入浴は週2回を基本としているが、希望時などは毎日入浴できるようにしている。入浴時は声かけの工夫や職員との会話などを行い、入浴が楽しめるような支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ご希望があったり、状態に応じて休めるよう支援したり、夜間は一人ひとりの生活習慣に合わせた就寝時間として安心して気持ちよく眠れるよう、ご希望や状態に応じた温度調節を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、訪問看護師連絡を密に地理、服薬状態を把握し、副作用・用法・用量について職員が理解し、服薬支援と症状の変化の確認について努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量に応じた役割を考慮し、お手伝い等の支援をしたり余暇活動として塗り絵・作品作り・散歩などで気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者様のご希望や、天気に応じて散歩や日光浴を行っています。また、ドライブや外食、お花見などで外出したり、ご家族様との外出等の支援も行っています。	日々、天候をみながら近隣を散歩したり、職員と一緒に買い物に出掛けたりしている。毎月1回ドライブを兼ね季節毎の花見やいちご狩りなどに出掛けている。また、家族と外食などに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針で、入居者様の現金は管理、または所持出来ない様になっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご希望があれば、ご家族に電話をして話しています。また、施設に住所がある為ハガキや手紙が届きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節を感じる花や掲示物を飾ったり、イベント時の写真を飾っています。季節に応じた制作品も職員と作り眺めて楽しんでいます。好きな場所で過ごせるよう工夫しています。	居間は天井が高く、明るく、ソファの設置や椅子席などがあり、好みの場所できつろげるようにしている。壁面には、外出時の写真や職員手作りの壁掛けなどが飾られている。また、利用者・職員合作の大きなくす玉は夜間時の照明に映えるなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファを設置し、椅子を各所に設置し、移動したり好きな場所で過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様、ご家族様の希望に応じや家具や写真・壁飾り・馴染みの物などを持ち込み、ご本人が落ち着いて過ごせるよう工夫・支援しています。	各居室のドアには、わかり易いように名前の表示や手作りの布製の果実が飾られている。室内はタンス・鏡台など馴染みの家具が自由に設置され、位牌を置かれる方もいるなど、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室が分からない方には名前の張り紙をしたり、居室ドアには各部屋の名前のフルーツを作り飾ったり、トイレには大きく「トイレ」と書かれています。		